

経済の流動と畜産の対応

中央畜産会理事
畜産コンサルタント指導団主幹

横地敬二

農業、畜産の流動

一般産業経済の高度成長がわが国農業にもたらしたものは、よく言われるように、農業の他産業に対する生産性ないし所得の格差の拡大現象であるが、畜産の場合、乳肉卵に対する需要の増大が、その生産の伸長に寄与したことに加えて、多頭飼養の発展から一見外観的には文字通り拡大成長の好況に恵まれたところがあるが、たまたま貿易自由化の進展とも関連して、畜産物価格の低迷を主因とする経営採算の最近の実態は、必ずしも安定改善の方向に進まず、飼料自給の困難、飼料輸入の増大など好ましくない諸現象の発生を通じて、むしろ一種の危機感すら高まるという、極めて複雑な情勢を招致しつつあるものと言えよう。

以上の極めて抽象的且つ端的な表現を数字の上で追ってみるなら、附表一に掲げたように、先ず農業総合では基本問題が掲げられた昭和三五年をベースとして三六、三七、三八年の夫々の実績比率は一〇二・五％、一〇七・四％、一〇五・〇％であり、また耕種全体では九七・七％、一〇〇・〇％、九六・一％であるが

そのうち米は九六・六％、一〇一・六％、一〇〇・〇％と殆んど動きを示さなかった。穀類でも麦類は米とは逆に、三六年九五・五％、三七年八四・六％と漸次減少したのが三八年には遂に二八・一％と著しい落ち込みを示した。次に成長株とされた果実についてみると、これまた評価の通りには伸びを示さず、一〇二・三％、一〇三・三％、一〇六・二％に過ぎず、野菜も九八・一％、一〇五・六％、一一二・四％程度、また工業作物では一〇五・七％、一一〇・〇％、一〇五・九％とこれまた著しい成長を示さなかった。なお耕種以外では養蚕は一〇三・六％、九八・二％、九九・八％でかろうじて現状を維持しているに過ぎない。

これに対し、問題の畜産では総合は一二八・三％、一四八・三％、一五五・一％で内訳としての乳用牛は一〇一・九％、一一五・〇％、一三七・一％、豚では一四六・七％、一八四・八％、一七〇・七％、鶏卵一三五・二％、一五三・七％、一六〇・四％、生乳一一二・〇％、一二九・二％、一四六・七％という具合で、軒並み大巾な増産が記録された。す

なわち、生産の規模に関する限り目覚しい拡大成長振りを示したのであり、これが曲りなりにも農業の総生産を引上げる効果を果したと言えるのである。

このような生産の伸びに対して、畜産物の価格はどんな動向を示したのであるか？それは附表二―三に掲げてあるが昭和三五年をベースとする農村物価において、農林生産物総合では三六、三七、三八の各年の実績は、それぞれ一〇八・八％、一一九・六％、一二七・六％に対し、工業作物一一二・八％、一三二・〇％、一四三・二％、畜一〇五・七％、一二四・六％、一四五・八％など相当の価格上昇を示しているが、農業生産物の平均では一〇八・七％、一一九・七％、一二七・七％、林産物では一一二・〇％、一二四・三％であるのに対し、問題の畜産物は三六年一〇〇・八％、三七年一〇三・七％、三八年一一〇・九％で、他の農業物資の価格に比べて決して有利な動向とは言えなかった。特に畜産物の三八年における農村の価格動向は附表四に示す通り、対前年比肉牛一〇〇・五％、肉豚一三八・九％、牛乳一〇〇・〇％、鶏卵一〇四・三％といった具合で、言ってみれば畜産物価格は豚を除いては、全く停滞的であるのに、他の農産物ないし一般物価が上昇している結果は、価格動向について言うなら、ここ三年来他産業はもちろん、他の農林物資からもとり残された存在であったと言ったことができよ

う。

なお、このような国内動向の他に畜産物は貿易自由化の最も遅れた物資であり国家保護を最も強く蒙りつつある品物に属するものと定義することができるが、乳製品については原料用チーズ、食肉では羊、馬などの雑肉、養鶏関係では種鶏、種卵の外にプロイラーも自由化された結果として、食肉ではすでに国内産を合わせた消費全量の一〇〇％程度、乳については許可制が続けられているが、学校給食用の脱脂粉乳を含めると四〇〇％程度の輸入が行われていることになり、直接間接に国内産畜産物の市価を圧迫していることに注目しなければならない。

また、これら不足傾向の一般畜産物とは対照的に、鶏卵と豚肉では、一時的な現象とは思われるが、供給過剰の傾向が強く、ために卵価や豚肉価格が下押しして養鶏経営の不安を醸成している。あれこれ考え合わせるならば、特に最近畜産の魅力は薄れたとし、折角畜産を取入れ農業自体の近代化を図るつもりであったと言ふ各地農村から強い不満が表明され、このところ、畜産振興の意気が上らないのも、無理なからずと言ふことにならう。さて、このような情勢を前にして、われわれ畜産関係者がどのように対応して行くべきか、その基本的な考え方を述べたい。

国際的視野で経営の合理化を

すでに十分気付いておられると思うが畜産物に対する需要の拡大はわれわれがかって想像したよりもはるかに高度のものであり、これが一般経済界の活況に支えられていることはもちろんであろうが食生活の変化が時とともに強く現われ、魚肉や野菜のそれとは違つて新しい消費の欲求が盛り上りつつあることを見逃してはならない。景気調整の影響も若干はであるかも知れぬが、量的には生産が追いつけない傾向が続くのではあるまいか。但

し鶏卵の場合のように増産テンポが余りにも高まった結果、拡大需要に対しても余剰を生じた畜産物があることには留意する必要がある。しかしこの場合も養鶏経営の動向は十分に注意する必要がある、増大する大羽数飼育経営と減少する副業形態との差引で見通しを建てるのが肝要である。

したがって一般的には、生産の地道な拡大を志すべきであるが、しかし生産機構の近代化によってできるだけ競争力を

附表1 農林産業生産指数 (農業)

年	農林業総合	耕種						養蚕	畜産				
		総合	米	麦類	野菜	果実	工業作物		総合	乳用牛	豚	鶏卵	生乳
昭35	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
36	102.5	97.7	95.5	96.1	102.3	105.7	100.6	128.7	111.9	146.7	135.2	112.0	
37	107.4	100.4	84.6	105.6	100.3	110.0	98.2	148.3	125.0	184.8	153.7	129.2	
38	105.0	96.1	28.1	112.4	106.2	105.9	99.8	155.1	107.1	170.7	160.4	146.7	
38/37	97.8	95.7	33.2	106.4	102.8	96.3	104.6	104.6	109.7	92.4	104.4	110.5	

強める努力が要請されるであろう。それには経営の改善努力はもちろん、経営そのものの体質改善が必要となる。これらの努力によって生産物のコストの引下げを図ることが、当面経営者に課せられた宿題であると言えるが、反面畜産物流通の合理化や価格の安定ないし引上げに法行政措置を講ずる必要性が加わってきており、最近の政治動向として基本的な価格流通対策を取上げるに至ったことは当然の成行であるとは言え、新しい年の前途を明るくする話題である。

このような価格対策の今後の見通しとも関連するが、畜産生産の在り方を大局的に結論するならば、何年かの後には全面的自由化は避け難いと推測されるので、今から仮定されるその年度を目安とし、国際価格に精寄せ、可能な限りコストの引下げを実現することを目指して、経営の合理化を急速に進める必要がある。もちろん、価格支持や流通の合理化は車の両輪のようなものであって、今後経済環境を画期的に改善することがあくまで不可欠の条件となろうが、生産者も一般経済

畜産・医科・理化
光学器械・計量器

川西器械店

岡山市浜田町 電停前
電話 ☎4501 ☎4501

東京出張所812-3896・0833
文京区湯島町 町通坂31

創業大正10年

附表2 物価概況

項目 年	農村物価 (昭35=100)				農業パリティ 指数 (昭25~ 26=100)		卸売物価(東京) 昭35=100		消費者物価 全 都 市 (昭35=100)		戦前基準 昭9~11=1	
	農林生産 物 (A)	購入品目 総合(B)	A/B	農 業 品	総 合	経 営	総 合	食料品	総 合	食 料	卸売物価 (東京)	消費者物 価(東京)
昭35	100.0	100.0	100.0	100.0	126.62	130.99	100.0	100.0	100.0	100.0	352.1	328.0
36	108.8	104.9	103.7	104.3	133.29	142.09	101.0	100.8	105.0	106.1	355.7	345.5
37	119.6	107.9	110.9	105.7	138.60	146.24	99.3	101.0	112.5	114.7	349.7	368.2
38	127.6	112.8	113.1	109.2	145.74	150.13	101.1	107.4	121.0	125.5	356.0	397.0
	106.7	104.5	102.0	100.3	105.2	104.7	101.8	106.3	107.6	109.4	101.8	107.9

附表3 農林生産物価指数

項目 年	農 林 物 価 (昭35=100)						卸売物価 (昭35=100)		
	農林生産 物 総 合	工芸作物	繭	畜産物	農 業 生産物	林産物	豚 肉	鶏 卵	牛 乳
昭35	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
36	108.8	112.8	105.7	100.8	108.7	112.0	87.0	96.5	106.7
37	119.6	132.0	124.6	103.7	119.7	114.3	79.2	97.9	114.7
38	127.6	140.2	145.8	110.9	127.7	126.0	110.7	100.8	115.9
38/37	106.7	108.5	117.0	106.9	106.7	110.2	139.8	106.0	101.9

ならびに畜産が置かれている経済流動の状況に着目し、国際的な視野に立ち競争力に富む経営の完成に向けて進むべきであると信ずる。

附表4 畜産物価格

項目 年	肉		乳			鶏 卵	
	農 村		農 村		小 売	農 村	
	肉 牛 (全国全 体1Kg)	肉 豚 (全国全 体1Kg)	飲用牛乳等 向け生乳 (全国1Kg)	乳製品等 向け生乳 (全国1Kg)	低温殺菌 びん詰 (びん代込) (東京1.8ℓ)	全 国 (1Kg)	小 売 地 玉 (1個約 56gr.) (東京1Kg)
昭35	178	207	27	24	142	182	229
36	192	163	30	28	158	172	222
37	201	167	33	31	174	186	230
38	202	232	33	31	180	194	242
38/37	100.5	138.9	100.0	100.0	103.4	104.3	105.7

